
この添付文書をよく読んでから使用してください。

体外診断用医薬品

※※2017年5月改訂（第3版）

※2013年10月改訂（第2版）

承認番号21200AMY00010000

品番 **30305**

B型肝炎ウイルス/e抗原/抗体キット

バイダス アッセイキット HBe 抗原/抗体 VIDAS HBe/Anti-HBe (HBE/HBET)

【全般的な注意】

- 本品は、体外診断用であり診断以外の目的に使用しないでください。
- 診断は他の関連する検査結果や臨床症状等に基づいて総合的に判断してください。
- 添付文書以外の使用方法については保証致しません。
- 使用する機器の添付文書等をよく読んでから使用してください。
- 本製品には、保存剤としてアジ化ナトリウムが含まれていますので誤って目や口に入れた場合、皮膚に付着した場合には水で十分に洗い流す等の応急処置を行い、必要があれば、医師の手当等を受けてください。
- 検体とは全血の採血管から分離した血清または血漿です。
- 沈殿物のある検体は、使用前に遠心操作を行ってください。検体の不均一性が疑われる場合には、必要に応じてよく混和してください。

※※ 【形状・構造等（キットの構成）】

1. 構成試薬の名称

①HBe試薬ストリップ(STR)	30本
②HBeスパー(SPR)	30本
③HBeAg陽性コントロール(C1)	1.5mL×1本
④HBe/Anti-HBe陰性コントロール(C2)	3mL×1本
⑤Anti-HBe陽性コントロール(C3)	1.5mL×1本
⑥HBeAgスタンダード(S1)(凍結乾燥品)	1mL用×4本
⑦Anti-HBeスタンダード(S2)	2mL×1本
⑧スタンダード(S1)希釀液(R1)	5mL×1本

2. ①HBe試薬ストリップは、10個のウエルを有しています。ウエルの内容は、下記のとおりです。

ウエル	内 容
1	サンプル用ウエル
2	標識抗体：ビオチン標識抗HBeマウスモノクローナル抗体 (300 μ L)
3・4	洗浄液：Tween 緩衝食塩液 pH7.8 (600 μ L)
5	標識ストレプトアビシン：アルカリフォスファターゼ標識ストレプトアビシン (400 μ L)
6・7・8・9	洗浄液：Tween 緩衝食塩液 pH7.8 (600 μ L)
10	蛍光基質：4-メチルウンベリフェリルリン酸 (300 μ L)

②HBeスパー(固相)は、その内壁に抗HBeマウスモノクローナル抗体がコーティングされています。

③HBeAg陽性コントロール(C1)は、リコンビナントHBe抗原を含有しています。

④HBe/Anti-HBe陰性コントロール(C2)は、リン酸緩衝液他より製します。

⑤Anti-HBe陽性コントロール(C3)は、抗HBe抗体を含有しています。

⑥HBeAgスタンダード(S1)(凍結乾燥品)は、リコンビナントHBe抗原(2 PEIU /mL)を含有しています。

注) PEIU(Paul Ehrlich Institute Unit)：ポールエーリッヒ研究所(ドイツ)の標準品で較正した力価単位です。

⑦Anti-HBeスタンダード(S2)は、ヒト血清です。

⑧スタンダード(S1)希釈液は、滅菌精製水です。

*注意喚起語：危険

危険有害性情報

H318：重篤な眼の損傷

注意書き

P280：保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること

P305+P351+P338：眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

【使用目的】

血清又は血漿中のHBe抗原又はHBe抗体の検出

【測定原理】

<原理>

本品は、蛍光基質を用いた酵素免疫測定法であるELFA (Enzyme Linked Fluorescent Assay) 法を採用し、ストレプトアビジン-ビオチン反応を応用したサンドイッチ法を測定原理としています。

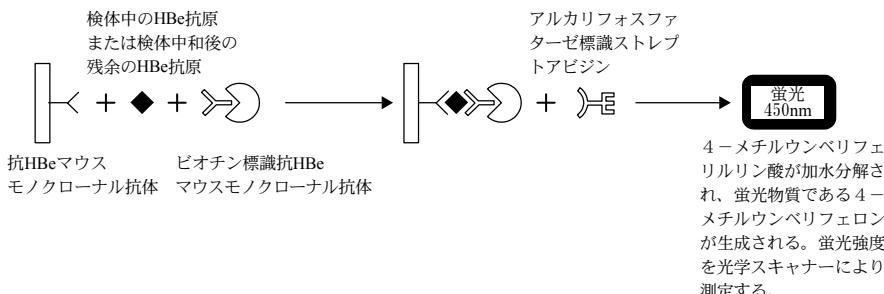
1. HBe抗原の検出

検体が試薬ストリップ中のビオチン標識抗HBeマウスモノクローナル抗体を含有しているウエルに加えられます。この混合溶液がスパー内に吸引され、検体中のHBe抗原がスパー内壁にコーティングされている抗HBeマウスモノクローナル抗体と結合し、同時に、ビオチン標識抗HBeマウスモノクローナル抗体とも結合します。さらに、アルカリフォスファターゼ標識ストレプトアビジンがスパー内に吸引され、ビオチンとストレプトアビジンが反応することにより、結合します。最後に、蛍光基質4-メチルウンベリフェリルリン酸がスパー内に吸引され、アルカリフォスファターゼにより、蛍光物質である4-メチルウンベリフェロンに加水分解されます。

370nmの励起光を照射して得られる450nmの蛍光強度を測定することにより、検体中のHBe抗原を検出します。分析から結果のプリントアウトまで自動免疫蛍光測定装置バイダスまたはミニバイダスにより自動的に行われます。

2. 抗HBe抗体の検出

HBeAgスタンダード(S1)を検体に加えて反応させることにより、HBe抗原が検体中の抗HBe抗体で中和されます。中和した検体をサンプル用ウエルに入れた後は、HBe抗原の検出と同様の方法で検体中の残余のHBe抗原が検出されます。検体中の抗HBe抗体量は蛍光強度に反比例します。



<特長>

1. ピペットチップ様固相のHBEスパーおよび必要な試薬をあらかじめ封入したHBE試薬ストリップの組合せで測定しますので、検体および試薬間の汚染の心配がありません。バイダス3をご使用の場合、検体チューブを装置内にセットし、検体の自動分注が可能です。
2. 自動免疫蛍光測定装置バイダスシリーズの機器により、自動的に分析からプリントアウトまで行われます。

3. 本品でHBe抗原及び抗HBe抗体を検出することができます。

【操作上の注意】

1. 検体は、感染の危険性を考慮して取り扱ってください。
2. 本品に含まれるHBe/Anti-HBe陰性コントロール(C2)およびAnti-HBeスタンダード(S2)は、HBs抗原およびHCV抗体、HIV-1、HIV-2抗体が陰性であることがそれぞれ確認されていますが、これらの取り扱いには生物学的安全性の見地から充分に注意してください。
3. 本品による測定は、血清または血漿(抗凝固剤として、ヘパリン、クエン酸ナトリウムおよびEDTA)を使用してください。熱処理による不活化検体の使用は、本品で確立されていないので、検体を加熱しないでください。冷蔵及び凍結検体は常温(15~25°C)に戻して使用してください。その際、ウォーターバス等での加熱はしないでください。
4. 検体は2~8°Cで7日間安定です。それ以降は-25±6°Cで凍結保存してください。検体は凍結融解を繰り返さないでください。
5. 妨害物質の影響は、ヘモグロビン5600mg/dL、トリグリセライド1000mg/dL、ビリルビン28.6mg/dLまで認められませんでした。
6. 本品試薬成分に対する抗体を含有している検体において妨害反応が見られる可能性があります。本品による測定結果は臨床所見ならびに他の検査結果等を考慮し、総合的に判断してください。
7. パウダーの付着した手袋を使用すると、誤った結果の原因になることがありますので本品の取り扱いには、パウダーフリーの使い捨て手袋を使用してください。
8. 本品は、「操作方法」欄に記載された方法に従って使用してください。記載された「操作方法」および「使用目的」以外に用いられた場合、誤った結果が得られることがあります。

【用法・用量（操作方法）】

＜試薬の調製方法＞

1. HBeAgスタンダード(S1)は1mLのスタンダード(S1)希釀液で溶解して用いてください。溶解後は2~8°Cで保存してください。
2. その他の構成試薬はそのまま使用してください。

＜必要な器具・器材・材料等＞

自動免疫蛍光測定装置バイダスシリーズの機器
ボルテックスミキサー
ピペット
精製水

※※<測定（操作）法>

PTCプロトコール、マスターロットデータの入力及びキャリブレーション補正

詳細な使用法についてはユーザーマニュアルを参照してください。

MLEデータの読み取り

外箱ラベルに印刷されているMLEデータをスキャンしてください。新しいロットの試薬を使用する前に、MLEデータを使用して機器に仕様（又はマスターデータ）を入力してください。試験を始める前に本作業が実施されない場合、機器は結果を印刷することができません。

注意：各ロットにつき1度、MLEデータを登録する必要があります。

機器によって、MLEデータは手動又は自動で入力することが可能ですが（ユーザーマニュアルを参照してください）。

キャリブレーション

新しいロットを使用する際は常に、MLEデータを読み取った後にキットに含まれているHBeAgスタンダード(S1)及びAnti-HBeスタンダード(S2)を用いてキャリブレーションを実施してください。その後、14日毎に1度、キャリブレーションを実施します。この操作によって、装置特有のキャリブレーション情報が得られ、有効期間中のアッセイシグナルのわずかな変動を補正することができます。S1 (HBeAg) 及びS2 (Anti-HBe) スタンダードは二重測定してください（ユーザーマニュアルを参照してください）。キャリブレーターの数値は規定のRFV「相対蛍光強度」の範囲内でなければなりません。範囲内に入らない場合は再度、キャリブレーションを実施してください。

※精度管理

新しいキットを使用する際及びキャリブレーション補正を実施する度に、本品に含まれるHBeAg陽性コントロール(C1)又はAnti-HBe陽性コントロール(C3)と、HBe/Anti-HBe陰性コントロール(C2)を用いて精度管理を行ってください。HBeAg陽性コントロール(C1)又はAnti-HBe陽性コントロール(C3)と、HBe/Anti-HBe陰性コントロール(C2)の測定値が規格値内にあることを確認してください。

操作方法

(1) HBe抗原の検出

- 1) 本品を冷蔵庫から出して、必要な本数のHBE試薬ストリップ、HBEスパーおよびその他必要な構成試薬のみを取り出し、試験室内に約30分間放置してください。残りは冷蔵庫に戻してください。
- 2) HBE試薬ストリップの所定の位置に、検体番号を記入してください。
- 3) バイダスシリーズの機器のユーザーズマニュアルの指示に従って、検体番号およびアッセイコード(HBE)を入力して、ワークリストを作成してください。
- 4) HBeAg陽性コントロール(C1)、HBe/Anti-HBe陰性コントロール(C2)、

およびHBeAgスタンダード(S1)をそれぞれボルテックスミキサーで充分に攪拌してください。

- 5) HBE試薬ストリップのサンプル用ウエルに検体を150 μ L入れてください。
 - 6) ワークリストで指定された位置にHBE試薬ストリップおよびHBEスパーをセットしてください。試薬ストリップとスパーの組み合わせを確認してください。
 - 7) バイダスシリーズの機器のユーザーズマニュアルの指示に従って、測定を開始してください。
 - 8) 機器により次の操作が自動的に行われます。
 - ①検体がHBE試薬ストリップのビオチン標識抗HBeマウスモノクローナル抗体を含むウエルに加えられます。
 - ②①の混合溶液のHBEスパー内への吸引、排出が数回繰り返されます。
 - ③検体中のHBe抗原がHBEスパーにコーティングされている抗HBeマウスモノクローナル抗体およびビオチン標識抗HBeマウスモノクローナル抗体に結合します。
 - ④HBEスパー内が数回洗浄されます。
 - ⑤次にアルカリフォスファターゼ標識ストレプトアビジンがHBEスパー内に吸引され、スパー内壁に結合しているビオチンと反応することにより結合します。
 - ⑥結合していないアルカリフォスファターゼ標識ストレプトアビジンが洗浄されます。
 - ⑦最後に蛍光基質4-メチルウンベリフェリルリン酸がHBEスパー内に吸引され、HBEスパー内のアルカリフォスファターゼにより、蛍光基質が蛍光物質4-メチルウンベリフェロンに加水分解されます。
 - ⑧370nmの励起光を照射して得られる450nmの蛍光強度を測定することにより、検体中のHBe抗原を検出します。
 - ⑨測定は約90分で終了し、結果は測定値、判定結果とともに相対蛍光強度(RFV)で示されます。測定値は、検体のRFVをHBeAgスタンダード(S1)のRFVで除した値です。RFVは、機器によって読み取られた蛍光の強さから計算される値です。
- 機器はHBE試薬ストリップの光学キュベット部分の蛍光の強さを2回、反応前(パックグラウンド)と反応後に読み取ります。2回目の値から1回目の値を引いたものをRFVとしています。

(2) 抗HBe抗体の検出

はじめに中和反応を行います。HBeAgスタンダード(S1)を検体、HBe/ Anti-HBe陰性コントロール(C2)、Anti-HBe陽性コントロール(C3)、Anti-HBeスタンダード(S2)に加えて、これらをウォーターパス、インキュベーター、バイダスシリーズの機器で反応させます。その後、測定を開始してください。

- 1) バイダスシリーズの機器で反応させる場合

①本品を冷蔵庫から出して、必要な本数のHBE試薬ストリップ、HBEスパーおよびその他必要な構成試薬のみを取り出してください。残りは冷

蔵庫に戻してください。

- ②HBE試薬ストリップの所定の位置に、検体番号を記入してください。
- ③バイダスシリーズの機器のユーザーズマニュアルの指示に従って、検体番号およびアッセイコード(HBET)を入力して、ワーカリストを作成してください。
- ④HBeAgスタンダード(S1)、Anti-HBeスタンダード(S2)、HBe/Anti-HBe陰性コントロール(C2)、およびAnti-HBe陽性コントロール(C3)をボルテックスミキサーで充分に攪拌してください。
- ⑤HBE試薬ストリップのサンプル用ウェルにHBeAgスタンダード(S1)を100 μ L入れてください。その中に検体100 μ Lを加えて、ピペッティングを反復することにより、充分に攪拌してください。
- ⑥ワーカリストで指定された位置にHBE試薬ストリップおよびHBEスパーをセットしてください。試薬ストリップとスパーの組み合わせを確認してください。機器で1時間±5分放置することにより、反応させてください。
- ⑦その後、バイダスシリーズの機器のユーザーズマニュアルの指示に従って、測定を開始してください。

2) ウォーターバスまたはインキュベーターで反応させる場合

- ①冷蔵庫から出して試験室内に約30分間放置したHBe/Anti-HBe陰性コントロール(C2)、Anti-HBe陽性コントロール(C3)、HBeAgスタンダード(S1)およびAnti-HBeスタンダード(S2)をボルテックスミキサーで充分に攪拌してください。
各ガラス製またはプラスチック製試験管にそれぞれHBeAgスタンダード(S1)を100 μ L入れてください。その中に検体、HBe/Anti-HBe陰性コントロール(C2)、Anti-HBe陽性コントロール(C3)およびAnti-HBeスタンダード(S2)をそれぞれ100 μ Lずつ加えて、試験管にふたをして、よく攪拌してください。
その後、ウォーターバスまたはインキュベーターで、37±2°Cで1時間±5分、反応させてください。
- ②反応の間に、必要な本数のHBE試薬ストリップ、HBEスパーを冷蔵庫から取り出し、試験室内に約30分間放置してください。残りは冷蔵庫に戻してください。
- ③HBE試薬ストリップの所定の位置に、検体番号を記入してください。
- ④バイダスシリーズの機器のユーザーズマニュアルの指示に従って、検体番号およびアッセイコード(HBET)を入力して、ワーカリストを作成してください。
- ⑤①で反応させた検体をボルテックスミキサーで充分に攪拌してください。
- ⑥HBE試薬ストリップのサンプル用ウェルに攪拌した検体を150 μ L入れてください。
- ⑦ワーカリストで指定された位置にHBE試薬ストリップおよびHBEスパーをセットしてください。試薬ストリップとスパーの組み合わせを確認し

てください。

⑧バイダスシリーズの機器のユーザーズマニュアルの指示に従って、測定を開始してください。

3) HBe抗原の検出 9) ①～⑨と同様の操作が、機器により自動的に行われます。測定は約90分で終了します。

【測定結果の判定法】

1. HBe抗原の検出

測定値	結果の判定
測定値 ≥ 0.1	陽性
測定値 < 0.1	陰性

2. 抗HBe抗体の検出

測定値	結果の判定
測定値 < 0.4	陽性
$0.4 \leq \text{測定値} < 0.5$	判定保留
測定値 ≥ 0.5	陰性

【性能】

1. 感度

(1) HBe抗原の検出

HBeAg陽性コントロール(C1)およびHBe/Anti-HBe陰性コントロール(C2)を用いて、「操作方法」欄に記載の方法に従って試験するとき、下記の値を示します。

	測定値
HBeAg陽性コントロール(C1)	≥ 0.1
HBe/Anti-HBe陰性コントロール(C2)	< 0.1

(2) 抗HBe抗体の検出

Anti-HBe陽性コントロール(C3)およびHBe/Anti-HBe陰性コントロール(C2)を用いて、「操作方法」欄に記載の方法に従って試験するとき、下記の値を示します。

	測定値
Anti-HBe陽性コントロール(C3)	< 0.4
HBe/Anti-HBe陰性コントロール(C2)	≥ 0.5

2. 正確性

(1) HBe抗原の検出

HBeAg陽性コントロール(C1)およびHBe/Anti-HBe陰性コントロール(C2)を用いて、「操作方法」欄に記載の方法に従って試験するとき、HBeAg陽性コントロール(C1)は陽性に、HBe/Anti-HBe陰性コントロール(C2)は、陰性に判定します。

(2) 抗HBe抗体の検出

Anti-HBe陽性コントロール(C3)およびHBe/Anti-HBe陰性コントロール(C2)を用いて、「操作方法」欄に記載の方法に従って試験するとき、Anti-HBe陽性コントロール(C3)は陽性に、HBe/Anti-HBe陰性コントロール(C2)は、陰性に判定します。

3. 同時再現性

同一検体につき、「操作方法」欄に記載の方法に従って、3回同時に試験するとき、測定値のCV値は15%以下です。

<相 関>

1. HBe抗原の検出試験

- (1) 臨床検体413例(血清)について本品と他のEIAキットとの相関を検討したところ、一致率99.3%と良好な相関が認められました。

		他のEIAキット	
		陽性	陰性
本 品	陽性	0	0
	陰性	3 ¹⁾	410

1)別のEIAキットで試験し、HBV-DNA法で確認したところ、結果は3例とも陰性でした。

- (2) 他のEIAキット1によりHBe抗原陽性と判定された臨床検体186例(血清)およびHBe抗原弱陽性と判定された臨床検体20例(血清)について本品と他のEIAキット2で試験したところ、結果は下記のとおりでした。

他のEIAキット1		本 品		他のEIAキット2	
		陽性	陰性	陽性	陰性
HBe抗原陽性検体	186	186	0	186	0
HBe抗原弱陽性検体	20	18	2 ²⁾	19	1

2)HBV-DNA法で確認したところ、結果は2例とも陰性でした。

2. 抗HBe抗体の検出試験

臨床検体900例(血清)について、本品と他のEIAキットとの相関を検討しました。判定保留であった20例は除外し、880例で検討を行いました。その結果、本品と他のキットとの一致率は95.2%(838/880)でした。

本 品		陽性	陰性
		陽性	陰性
本 品	陽性	274	21
	陰性	21	564

両キットで結果が一致しなかった検体については、さらに別のEIAキットで試験を行ったところ、下記のとおりでした。

本 品		確認試験後の結果	
		陽性	陰性
本 品	陽性	282	13 ¹⁾
	陰性	6 ²⁾	579

1) 13例は抗HBe抗体陰性で、HBe抗原も陰性でした。13例は本品の偽陽性かまたはHBe抗原が消失し、抗体が出現した時期の検体であると考えられます。

2) 6例は抗HBe抗体陽性で、そのうち、HBe抗原は5例が陽性、1例が陰性であるので、本品の偽陰性かまたは抗体産生初期の検体であると考えられます。

3. 血漿検体における試験成績

- (1) クエン酸ナトリウム、ヘパリン、EDTAを添加したHBe抗原陽性検体19例(血漿)、陰性検体43例(血漿)および同一症例から採取した血清検体を用いて、本品で試験したところ、いずれの検体でも同様の結果が得られたことから、血漿検体を用いた場合でも基準的方法と相関があることが認められました。
- (2) クエン酸ナトリウム、ヘパリン、EDTAを添加した抗HBe抗体陽性検体25例(血漿)、陰性検体34例(血漿)および同一症例から採取した血清検体を用いて、本品で試験したところ、いずれの検体でも同様の結果が得られたことから、血漿検体を用いた場合でも基準的方法と相関があることが認められました。

＜交差反応性＞

1. HBe抗原陰性の各種検体について、本品で試験したところ、結果はすべて陰性で交差反応は認められませんでした。

検 体	検体数	交差反応例
抗核抗体陽性	9	0
EBV陽性	3	0
抗HCV抗体陽性	18	0
抗HAVIgM抗体陽性	6	0
リウマチ因子高値	33	0

2. 抗HBe抗体陰性の各種検体について、本品で試験したところ、結果はすべて陰性で交差反応は認められませんでした。

検 体	検体数	交差反応例
抗核抗体陽性	10	0
EBV陽性	10	0
抗HCV抗体陽性	8	0
抗HAVIgM抗体陽性	9	0
抗HBs抗体陽性	10	0
リウマチ因子高値	11	0

【使用上又は取扱い上の注意】

＜取扱い上（危険防止）の注意＞

1. 口でのピペット操作はしないでください。
2. 試薬が誤って皮膚に付いたり、目や口に入った場合は、水で充分に洗い流してください。必要に応じて医師の手当を受けてください。

- 試薬がこぼれたり、もれたりした場合は、洗浄剤又は消毒剤できれいに拭き取ってください。

＜使用上の注意＞

- 本品は凍結を避け、2～8℃で貯蔵してください。
- キットを開封したときに、スパーのパッケージが密封されており、破損がないことを確認してください。密封されていなかつたり、破損していた場合は、スパーを使用しないでください。使用後はスパーの安定性を保つために、乾燥剤がはいったパッケージをしっかりと密封してください。そしてキットを2～8℃に保存してください。
- 異なるロットの構成試薬を混合して使用しないでください。
- キット中の容器、付属品等は、他の目的に転用しないでください。
- 使用期限を過ぎた製品は、使用しないでください。
- バイダスシリーズの機器は定期的に清浄してください。

＜廃棄上の注意＞

- 本品の構成試薬中のHBE試薬トリップ、HBsAg陽性コントロール(C1)、HBe/Anti-HBe陰性コントロール(C2)、Anti-HBe陽性コントロール(C3)、Anti-HBeスタンダード(S2)、スタンダード(S1)希釈液は、0.09%アジ化ナトリウムを含有しており、鉛または銅と反応して爆発性の金属アジ化合物を生成する可能性がありますので、下水道に排廃する際は、大量の水を流してください。
- 患者から採取した検体の取扱いには充分注意し、廃棄する際は必ずオートクレーブで滅菌する等、適切に処理してください。
- 使用済みの検体、試薬、器具等は必ずオートクレーブで滅菌または0.5%次亜塩素酸溶液等に浸してから廃棄してください。
注) 0.5%次亜塩素酸溶液で処理したものはオートクレーブで滅菌しないでください。
- 試薬及び器具等を廃棄する場合には、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、水質汚濁防止法等の規定に従って処理してください。

【貯蔵方法・有効期間】

2～8℃で保存してください（禁凍結）。

有効期間は12ヶ月です。

使用期限は、パッケージのマークに記載しております。

【包装単位】

30回用

【主要文献】

1. Ahtone J. et al. : Laboratory Diagnosis of Hepatitis B. JAMA 249 : 2067-2069, 1983
2. Bonino F. et al. : Hepatitis B Virus Precore Mutants.
Viral Hepatitis and Liver Diseases 256-260, 1994
3. Chen D.S. et al. : Serum HBsAg, HBeAg, anti-HBe and Hepatitis B virus DNA in Asymptomatic Carriers in Taiwan. J.MED.Virol 19: 87-94,1986
4. Chisari F. et al. : Hepatitis B virus immunopathology.
Springer Semin Immunopathol.17: 261-281,1995
5. Heijtink R.A. et al. : Quantitative measurement of HBeAg in chronic hepatitis B.
Journal of Medical Virology 47 : 245-250, 1995
6. Zuckerman A.J. et al. : Viral Hepatitis. Scientific Basis and Clinical Management.
Churchill Livingstone 396, 1993

【問い合わせ先】

システムエックス株式会社 CSセンター
〒651-2241 神戸市西区室谷1丁目3番地の2
TEL 0120-265-034

システムエックス・ビオメリュー株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目2番2号 大崎セントラルタワー8階
TEL 03-6834-2666 (代表)

【製造販売業者の氏名または名称及び住所】

システムエックス・ビオメリュー株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目2番2号 大崎セントラルタワー8階

※※※ 本添付文書は、下記Webサイトからダウンロードできます。

<http://products.sysmex-biomerieux.net/>

製造販売元 システムエックス・ビオメリュー株式会社

〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目2番2号 大崎セントラルタワー8階

